

2026年3月期

Fly to the next stage!

決算説明資料

ヤマシンフィルタ株式会社
2026年5月22日



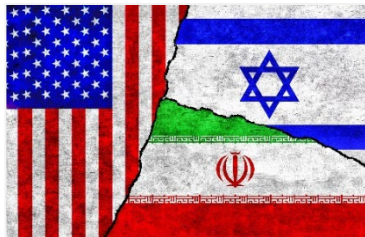
| エグゼクティブサマリー

- ◆ 2026年3月期は創業以来最高水準の売上高、当期純利益を達成
- ◆ 2027年3月期は売上高、営業利益、経常利益、当期純利益全て過去最高を更新の見通し
- ◆ エクイティストーリー「YAMASHIN FILTER VISION 2030」の実現に向け、新規事業確立に向けた体制整備と先行投資を実施、機能素材事業セグメントを立ち上げ

事業環境	2026年3月期 業績動向	2027年3月期 期初予算
市場 建機用フィルタ エアフィルタ ビジネスモデル別 ライン 補給 地域別 日本 北米 欧州 中国 アジア 主要原材料 エネルギーコスト 高止まり 高止まり	連結売上高：209億41百万円 前期比：4.2%増収 連結営業利益：25億92百万円 前期比：1.4%減益 ※自己資本比率：81.3% 建機用フィルタ 186億54百万円 前期比：+6.7% エアフィルタ 22億86百万円 前期比：△12.5%	連結売上高：225億60百万円 前期比：7.7%増収 連結営業利益：28億25百万円 前期比：9.0%増益 ※自己資本比率：74.7% 建機用フィルタ ・ライン品需要は堅調に推移する見通し ・補給品は引き続き底堅く推移する見通し エアフィルタ ROICの改善が急務 機能素材 機能テキスタイル分野、アパレル市場への製品供給開始

- ◆ 現時点での中東情勢の当社グループへの業績影響は軽微であることから、2027年3月期の業績見通しには織り込まず
- ◆ 米国関税についての業績影響も極めて軽微

建機用フィルタビジネスにおける中東情勢 想定リスク



影響の可能性がある分野

製造/輸送

製造拠点

日本



フィリピン



ベトナム



想定リスク		対象拠点	影響度	想定影響額	対応策
生産	・ 原材料価格高騰	日本 フィリピン ベトナム	小	軽微	サプライチェーン見直し 原材料在庫保有増加 (+1か月分程度) 製品在庫保有増加 (+1か月分程度) 価格転嫁
	・ 物流費高騰 原材料調達遅延 製品出荷遅延				
営業	・ 工場稼働リスク	日本 アメリカ ベルギー タイ 中国	小	軽微	サプライチェーン見直し 製品在庫保有増加 (+1か月分程度)
	製品出荷				

- ◆ 2026年3月期は、建機用フィルタ事業において中期経営計画が着実に進展した一方、エアフィルタ事業の低調および新規事業の先行投資負担により、MAVY'sはマイナス
- ◆ 非財務情報においては、中期経営計画目標のCDPスコア目標を前倒して達成

財務情報

	2025年 3月期 (実績)	2026年 3月期 (実績)	2028年 3月期 (中計)
MAVY's (%)	0.1	△0.7	2.9
ROIC (%)	8.2	7.2	10.2
WACC (%)	8.1	7.9	7.3

株主還元

	2025年 3月期 (実績)	2026年 3月期 (実績)	2028年 3月期 (中計)
配当金	12円	18円	—
連結 配当性向 (%)	49.3	73.1	82.9
DOE (%)	3.9	5.5	10.3

非財務情報

2026年2月

CDP気候変動

最上位に位置する

Aスコア

2年連続で取得

2025年6月

ESG 投資指数

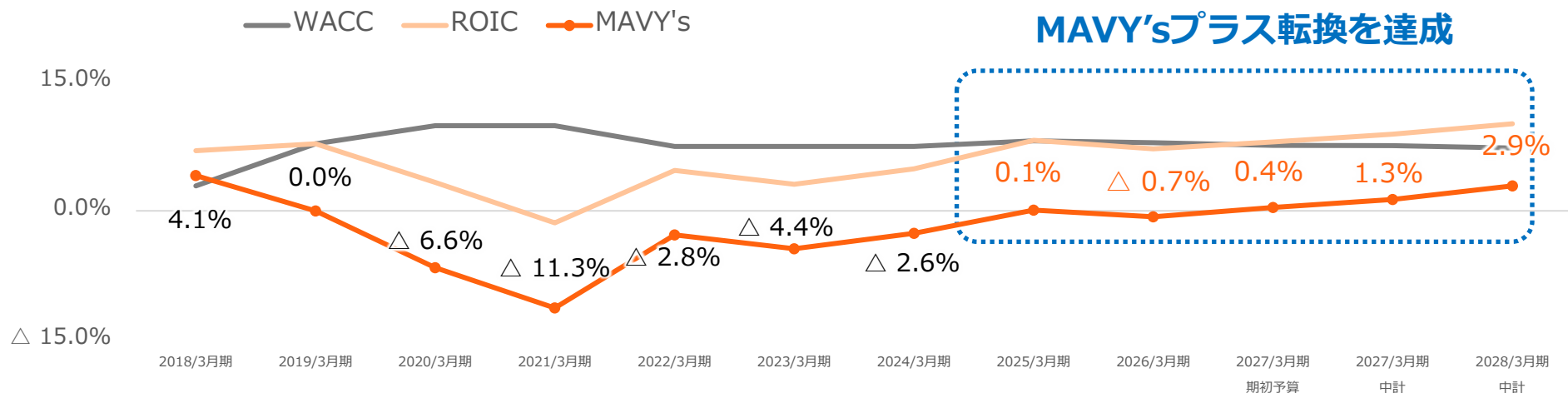
FTSE

FTSE JPX Blossom Japan Index (初選定)
FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index

総合スコア **3.8** 取得

※ MAVY's = ROIC-WACC

- ◆ 2027年3月期は、中期経営計画の事業戦略の遂行によりMAVY'sをプラス転換
- ◆ 2030年3月期に向け、新規事業の確立により更なるMAVY'sの拡大を実現



	2018/3月期	2019/3月期	2020/3月期	2021/3月期	2022/3月期	2023/3月期	2024/3月期	2025/3月期	2026/3月期	2027/3月期 期初予算	2027/3月期 中計	2028/3月期 中計
MAVY's	4.1%	0.0%	△ 6.6%	△ 11.3%	△ 2.8%	△ 4.4%	△ 2.6%	0.1%	△ 0.7%	0.4%	1.3%	2.9%
ROIC	7.0%	7.8%	3.3%	△ 1.4%	4.7%	3.1%	4.9%	8.2%	7.2%	8.0%	8.9%	10.2%
WACC	2.9%	7.8%	9.9%	9.9%	7.5%	7.5%	7.5%	8.1%	7.9%	7.6%	7.6%	7.3%

※2018/3月期のMAVY's及びWACCについては参考値を記載しております。

| 2026年3月期 第4四半期実績

2026年3月期第4四半期実績（2026/1-3）

PLセグメント別（連結、建機、エア）

- ◆ 建機用フィルタ事業における堅調な新車需要により、営業利益は増益
- ◆ エアフィルタ事業低迷により繰延税金資産を取崩し四半期純利益は減益

		2025/3期 Q4 実績	2026/3期 Q4 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
売上高		5,158	5,338	179	3.5%
	建機用フィルタ※	4,456	4,746	289	6.5%
	エアフィルタ	702	592	△109	△15.7%
営業利益（セグメント利益）		579	611	31	5.5%
	建機用フィルタ※	553	619	66	11.9%
	エアフィルタ	26	△8	△34	—
営業利益率		11.2%	11.4%	0.2Pt	
経常利益		571	592	20	3.6%
経常利益率		11.1%	11.1%	0.0Pt	
四半期純利益		493	397	△95	△19.4%
四半期純利益率		9.6%	7.4%	△2.1Pt	
為替レート（円） （期中平均値）	USD	152.6	150.8	△1.8	△1.2%
	EUR	163.8	174.8	11.1	6.7%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

2026年3月期第4四半期実績（2026/1-3）

売上高（製品別）

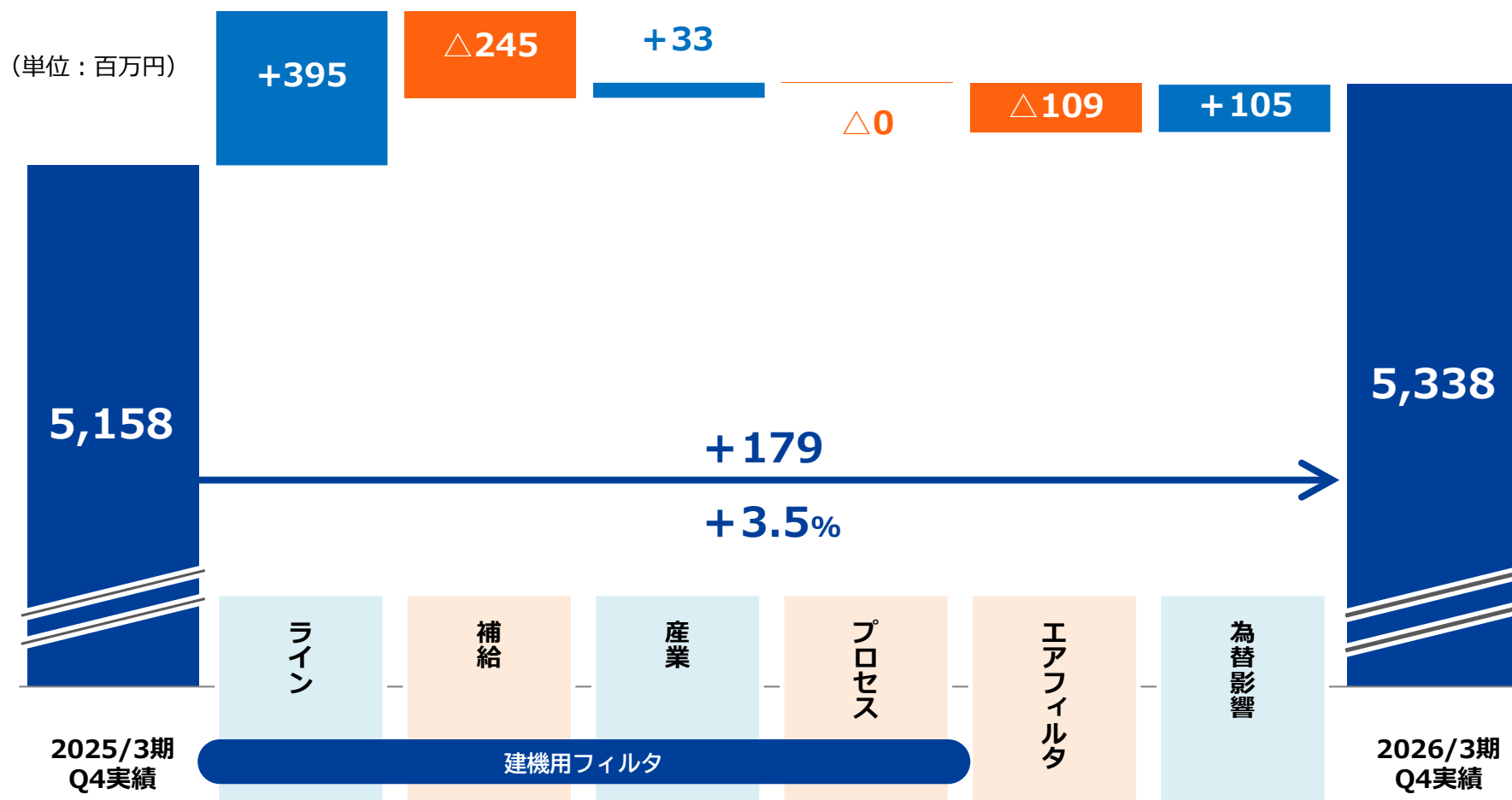
- ◆ 新車需要は堅調に推移し、ライン品の売上高が大きく伸長、補給品需要は前年比反動減も堅調維持

■ 製品別売上高

		2025/3期 Q4 実績	2026/3期 Q4 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ		4,127	4,379	251	6.1%
	ライン品	1,445	1,883	438	30.3%
	補給品	2,681	2,495	△186	△6.9%
産業用フィルタ		167	201	34	20.5%
プロセス用フィルタ		162	165	3	2.0%
建機用フィルタ 合計		4,456	4,746	289	6.5%
エアフィルタ		702	592	△109	△15.7%
売上高合計		5,158	5,338	179	3.5%

売上高増減グラフ（前年同期比）

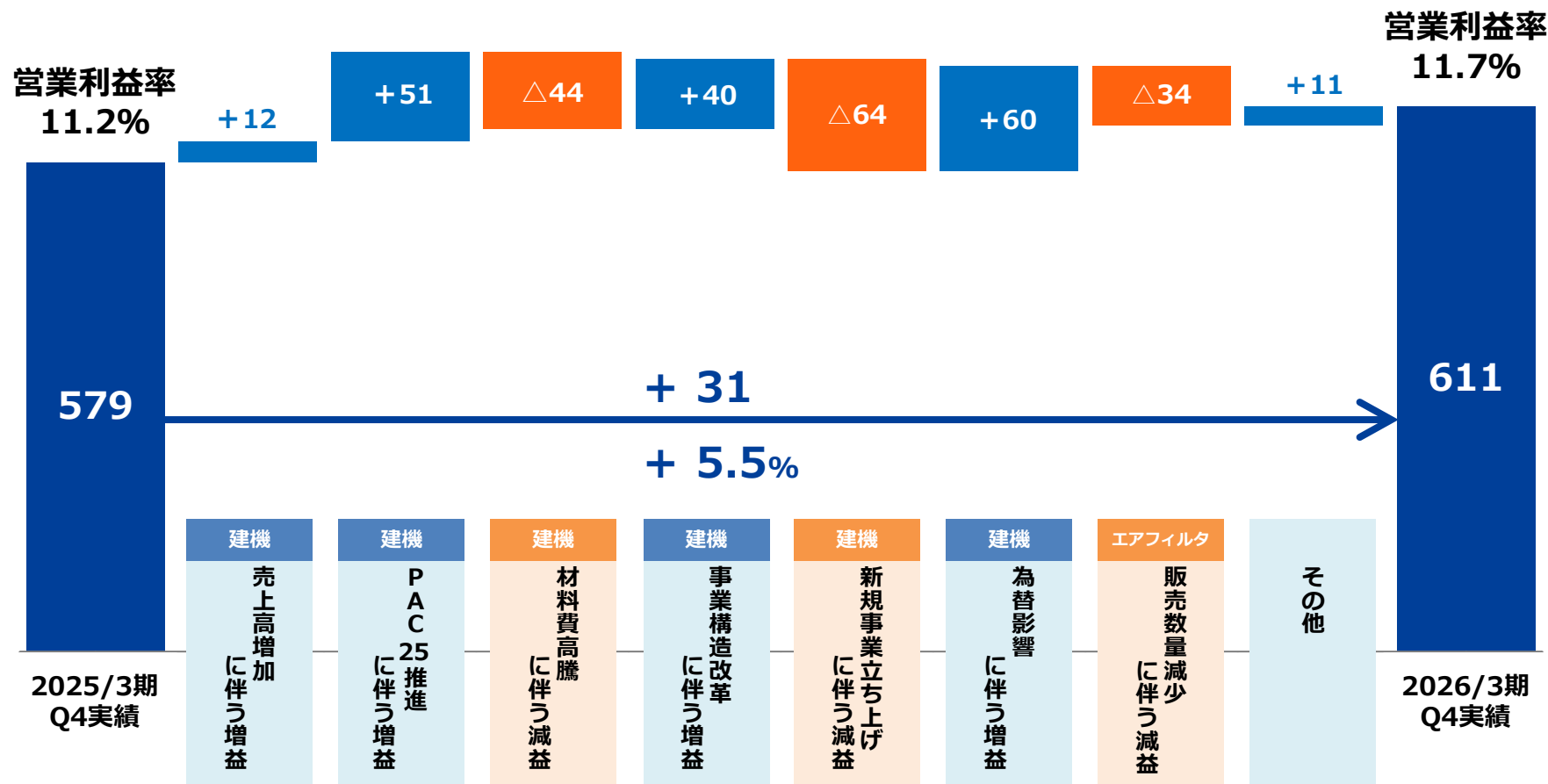
- ◆ 建機用フィルタ事業における新車需要は堅調に推移し、大幅な増収
- ◆ エアフィルタ事業については、基幹システム入れ替えに伴う混乱は収束するも、売上高の回復にはなお時間を要する見込み



2026年3月期第4四半期実績（2026/1-3）
営業利益増減グラフ（前年同期比）

- ◆ 主力事業である建機用フィルタ事業の業績は着実に改善、新規事業立ち上げに伴う先行投資およびエアフィルタ事業の業績低調により営業利益の伸長は鈍化

（単位：百万円）



* 2026年3月期第2四半期より、海上運賃の増減については売上高の増加に伴う増益に含めて表示しております。

2026年3月期 通期業績 (2025年4月-2026年3月)

2026年3月期通期実績（2025/4-2026/3）

PLセグメント別（連結、建機、エア）

- ◆ 2026年3月期は計画値を下回るも、創業以来最高水準の売上高、当期純利益を達成
- ◆ 北米市場におけるAIデータセンタ需要増、活発なインフラ投資により事業環境は良好
- ◆ 新規事業立ち上げに伴う先行投資、エアフィルタ事業の業績低調により営業利益は減益

		2025/3期 通期 実績	2026/3期 通期 実績	前期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
売上高		20,104	20,941	836	4.2%
	建機用フィルタ※	17,489	18,654	1,164	6.7%
	エアフィルタ	2,615	2,286	△328	△12.5%
営業利益（セグメント利益）		2,630	2,592	△37	△1.4%
	建機用フィルタ※	2,554	2,713	158	6.2%
	エアフィルタ	75	△120	△196	—
営業利益率		13.1%	12.4%	△0.7Pt	
経常利益		2,669	2,535	△134	△5.0%
経常利益率		13.3%	12.1%	△1.2Pt	
当期純利益		1,723	1,718	△4	△0.3%
当期純利益率		8.6%	8.2%	△0.4Pt	
為替レート（円） （期中平均値）					
	USD	152.6	150.8	△1.8	△1.2%
	EUR	163.8	174.8	11.1	6.7%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

- ◆ 新車需要堅調によりライン品の売上高が大きく伸長、補給品需要は前年度の反動減も堅調を維持

■ 製品別売上高

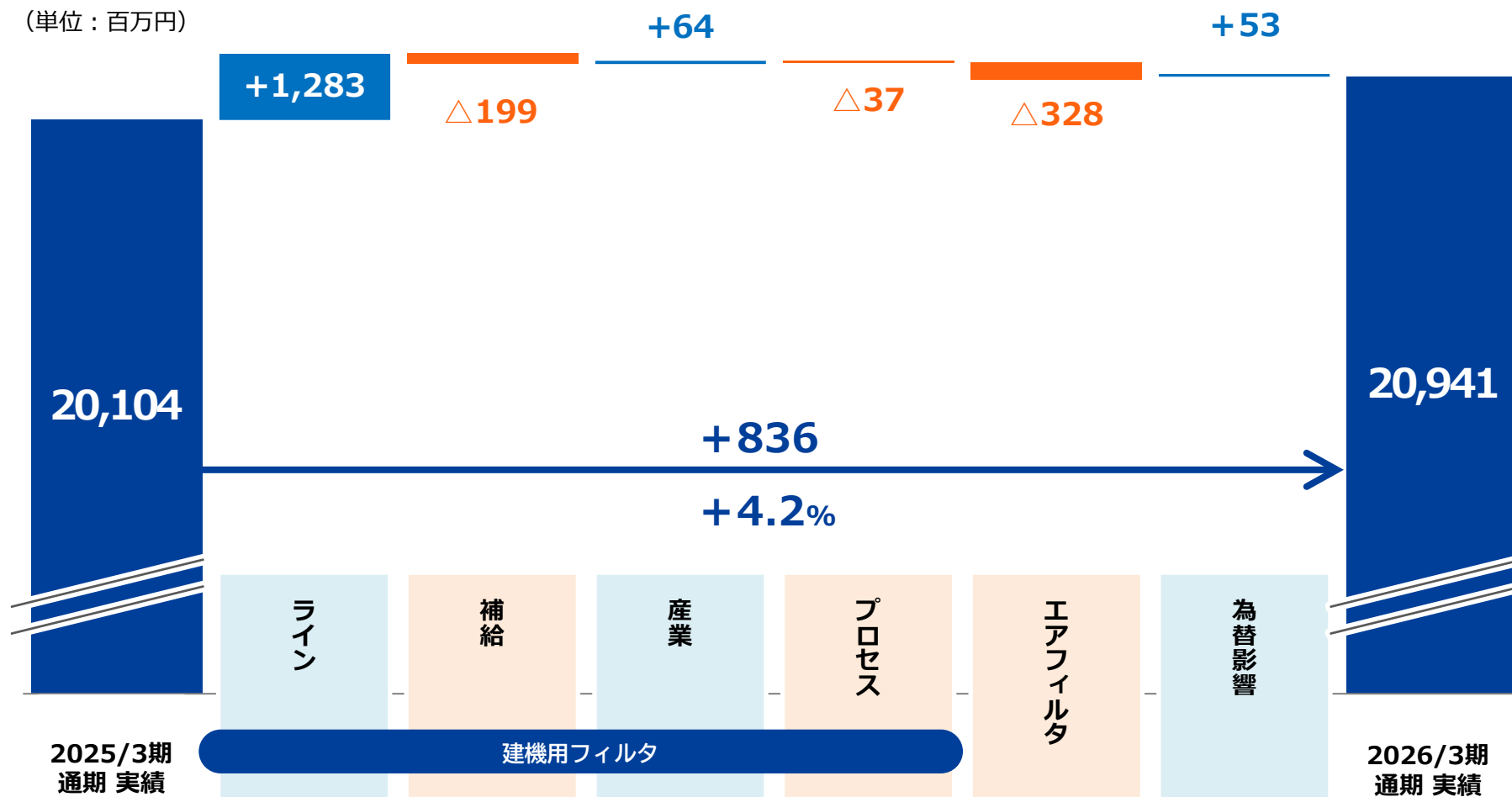
		2025/3期 通期 実績	2026/3期 通期 実績	前年同期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ		16,080	17,210	1,129	7.0%
	ライン品	5,599	6,898	1,299	23.2%
	補給品	10,481	10,311	△169	△1.6%
産業用フィルタ		708	772	64	9.1%
プロセス用フィルタ		699	670	△28	△4.1%
建機用フィルタ 合計		17,489	18,654	1,164	6.7%
エアフィルタ		2,615	2,286	△328	△12.5%
売上高合計		20,104	20,941	836	4.2%

2026年3月期通期実績（2025/4-2026/3）

売上高増減グラフ（前期比）

- ◆ 建機用フィルタ事業における新車需要の増加に伴い、大幅な増収
- ◆ エアフィルタ事業については、基幹システム入れ替えに伴う混乱は収束するも、売上高の回復にはなお時間を要する見込み

（単位：百万円）

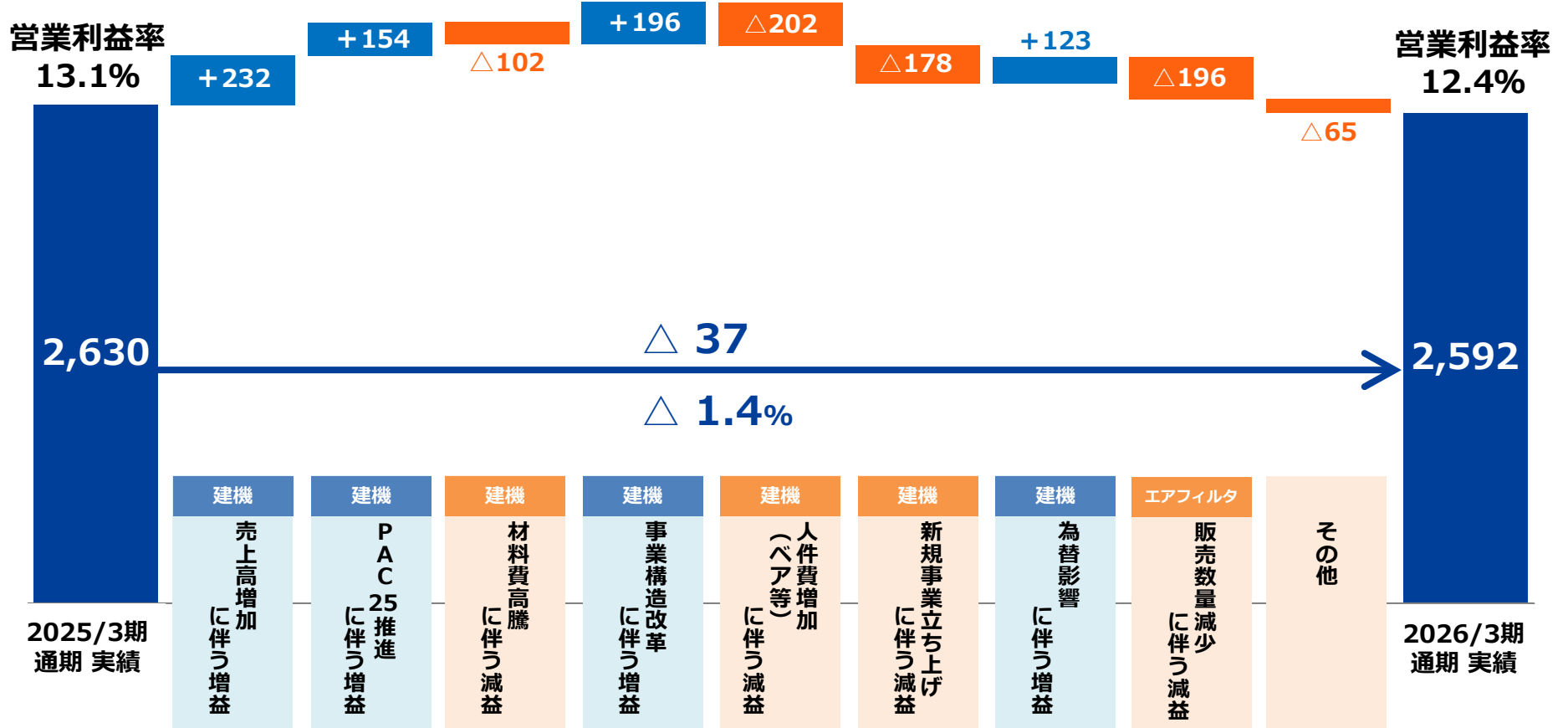


2026年3月期通期実績（2025/4-2026/3）

営業利益増減グラフ（前期比）

- ◆ 主力事業である建機用フィルタ事業の業績は着実に改善も、新規事業立ち上げに伴う先行投資、エアフィルタ事業の業績低調により減益
- ◆ エアフィルタ事業における基幹システム入れ替えに伴う混乱は収束、需要回復に向けた取り組みを強化

（単位：百万円）

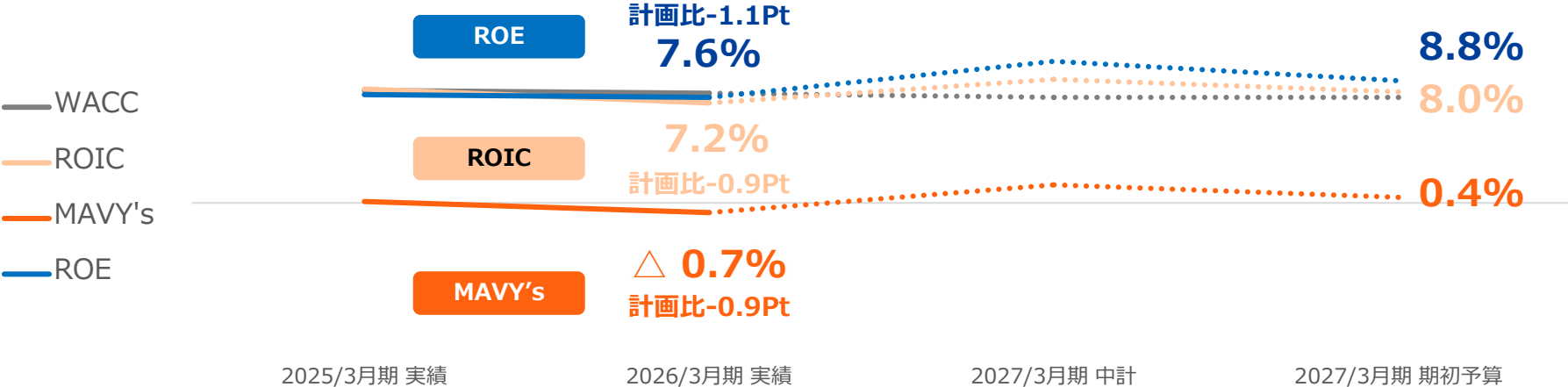


* 2026年3月期第2四半期より、海上運賃の増減については売上高の増加に伴う増益に含めて表示しております。

| 2027年3月期 通期業績見通し

2027年3月期見通し（2026/4-2027/3）
KPI進捗（MAVY's、ROIC、WACC、ROE）

- ◆ 2026年3月期は、建機用フィルタ事業において中期経営計画が着実に進展した一方、エアフィルタ事業の低調および新規事業の先行投資負担により、MAVY'sはマイナス
- ◆ 2027年3月期は、建機用フィルタ事業においては、過去最高の確定受注残高を追い風に更なる収益改善を推進、エアフィルタ事業の収益性改善を最優先課題とし、MAVY'sプラス転換を図る



	2025/3月期	2026/3月期			2027/3月期		
	実績	中計計画値	実績	計画比	中計計画値	期初予算	計画比
MAVY's	0.1%	0.2%	△0.7%	△0.9Pt	1.3%	0.4%	△0.9Pt
ROIC	8.2%	8.1%	7.2%	△0.9Pt	8.9%	8.0%	△1.0Pt
WACC	8.1%	7.9%	7.9%	-	7.6%	7.6%	△0.0Pt
ROE	7.8%	8.6%	7.6%	△1.1Pt	10.2%	8.8%	△1.4Pt

2027年3月期見通し（2026/4-2027/3）

PLセグメント別（連結、建機、エア）

- ◆ 中期経営計画は順調に進展、新規事業立ち上げに伴う先行投資・コスト増を見込むが、創業以来最高の連結業績を更新見通し
- ◆ 北米市場におけるAIデータセンタ需要増、活発なインフラ投資により事業環境は良好
- ◆ 2027年3月期より新規事業を機能素材セグメントとして独立開示

		2025/3期 実績	2026/3期 実績	2027/3期 期初予算	前期比
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）
売上高		20,104	20,941	22,560	1,618
	建機用フィルタ※	17,489	18,654	20,200	1,545
	エアフィルタ	2,615	2,286	2,330	43
	機能素材	—	—	30	30
営業利益（セグメント利益）		2,630	2,592	2,825	232
	建機用フィルタ※	2,554	2,713	3,190	476
	エアフィルタ	75	△120	5	125
	機能素材	—	—	△370	△370
営業利益率		13.1%	12.4%	12.5%	0.1Pt
経常利益		2,669	2,535	2,775	239
経常利益率		13.3%	12.1%	12.3%	0.2Pt
当期純利益		1,723	1,718	2,005	286
当期純利益率		8.6%	8.2%	8.9%	0.7Pt
為替レート（円） （期中平均値）	USD	152.6	150.8	155.0	—
	EUR	163.8	174.8	180.0	—

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

2026 ©YAMASHIN-FILTER CORP. All rights reserved.

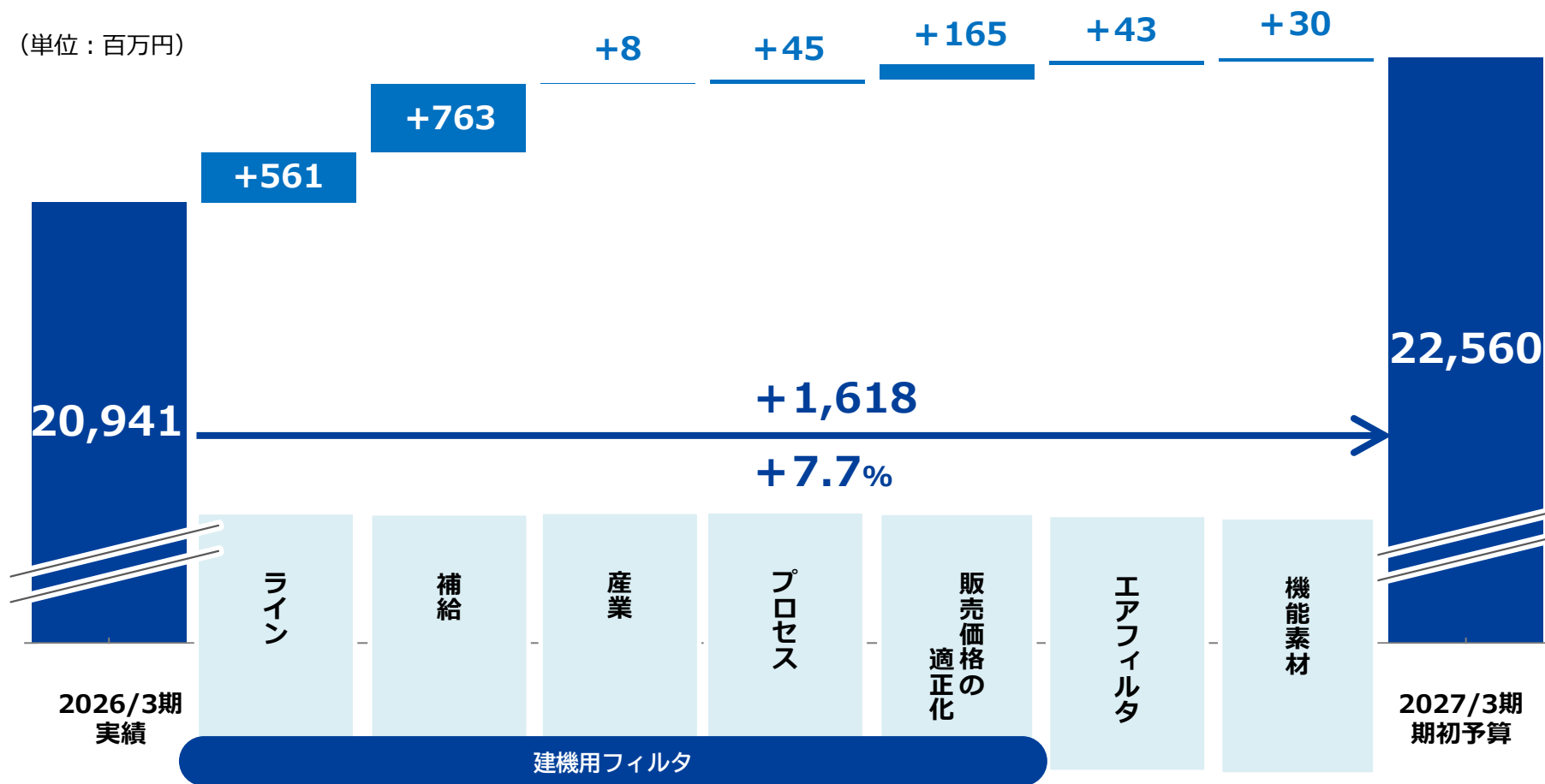
- ◆ 新車需要の回復、高付加価値製品の供給によるシェア拡大戦略により、ライン品、補給品ともに増収見通し
- ◆ 新規事業である機能素材セグメントにおいては、アパレル分野への製品供給を開始

■ 製品別売上高

		2025/3期 実績		2026/3期 実績		2027/3期 期初予算		前期比	
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ		16,080	80.0%	17,210	82.2%	18,695	82.9%	1,485	8.6%
	ライン品	5,599	27.9%	6,898	32.9%	7,429	32.9%	531	7.7%
	補給品	10,481	52.1%	10,311	49.2%	11,265	49.9%	953	9.2%
産業用フィルタ		708	3.5%	772	3.7%	781	3.5%	8	1.1%
プロセス用フィルタ		699	3.5%	670	3.2%	722	3.2%	51	7.7%
建機用フィルタ 合計		17,489	87.0%	18,654	89.1%	20,200	89.5%	1,545	8.3%
エアフィルタ		2,615	13.0%	2,286	10.9%	2,330	10.3%	43	1.9%
機能素材		—	—	—	—	30	0.1%	30	—
売上高合計		20,104	100.0%	20,941	100.0%	22,560	100.0%	1,618	7.7%

- ◆ 建機用フィルタ事業における新車需要回復や高付加価値製品の供給によるシェア拡大戦略により、ライン品は増収、補給品も北米中心に増加する見通し
- ◆ エアフィルタ事業においては、基幹システム入れ替えに伴う出荷遅延の影響は沈静化、新規直販体制の強化による収益性の改善を図る

（単位：百万円）

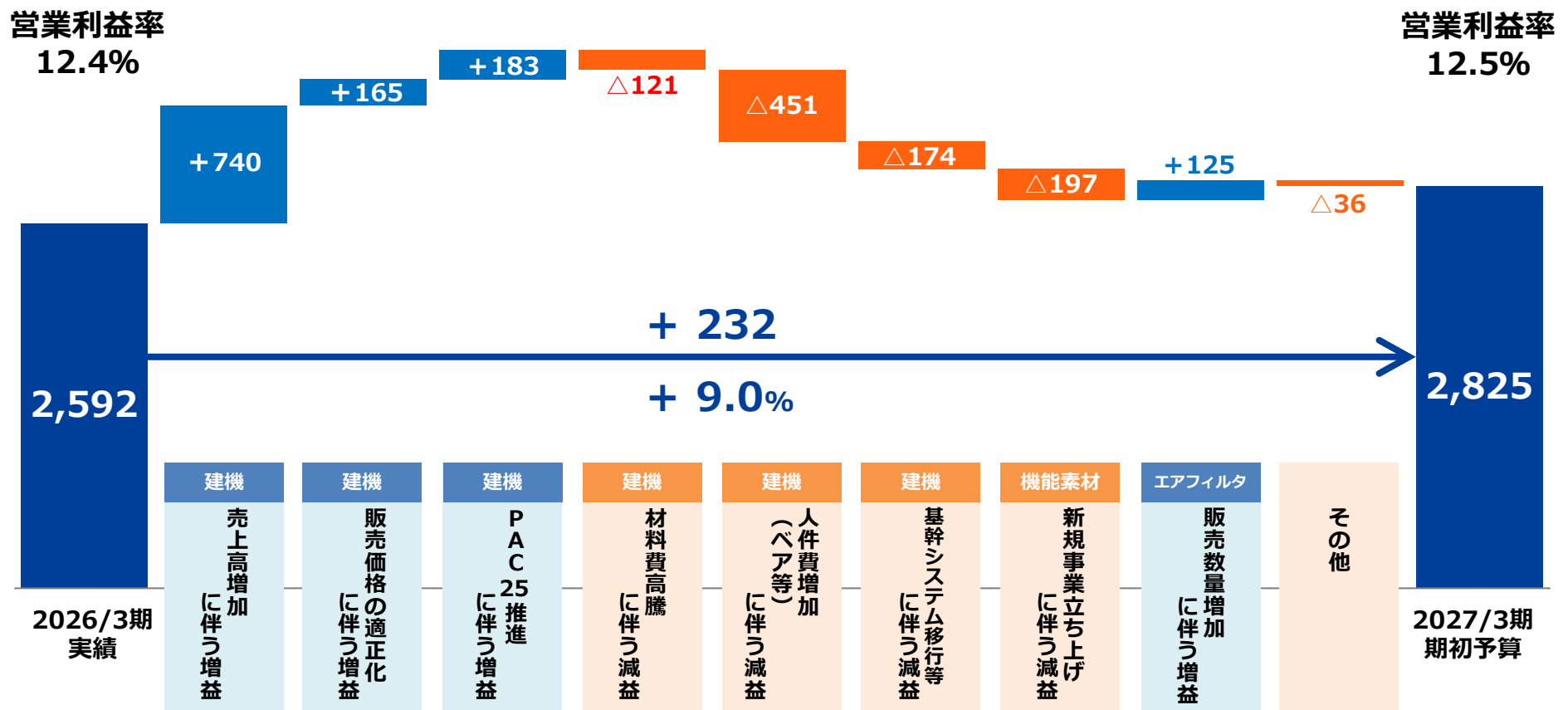


2027年3月期見通し（2026/4-2027/3）

営業利益増減グラフ（実績比）

- ◆ 新規事業立ち上げに伴う先行投資・コスト増を販売数量の増加、原価低減によりカバーし、創業以来最高の連結業績を更新見通し

（単位：百万円）



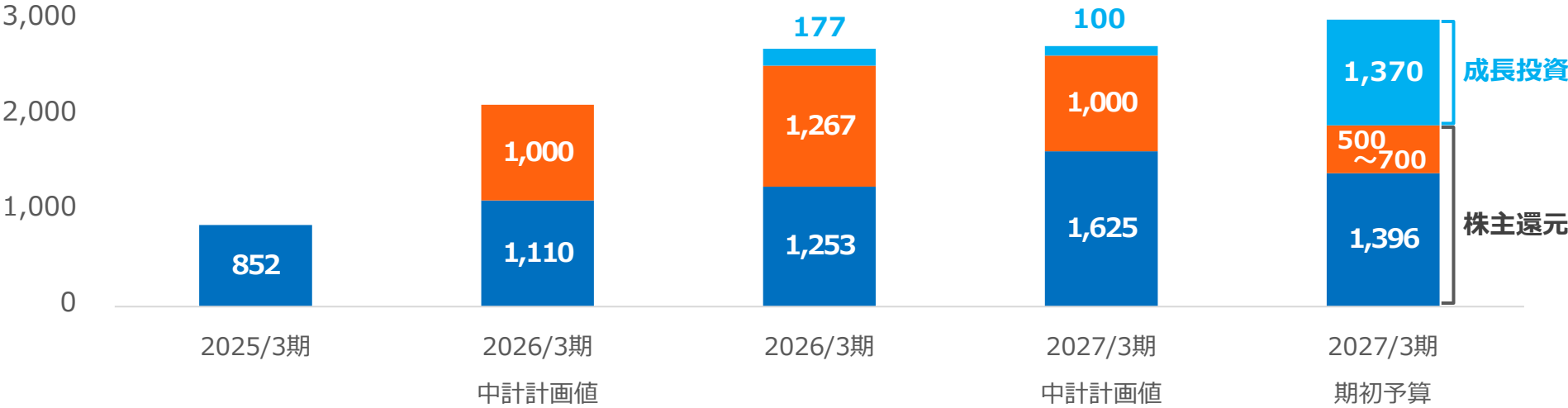
* 2026年3月期第2四半期より、海上運賃の増減については売上高の増加に伴う増益に含めて表示しております。

株主還元（配当金、DOE、配当性向、総還元性向）

- ◆ 成長投資と株主還元のバランスを両立させた配当政策を実施
- ◆ 2027年3月期は配当方針を見直し、資本を成長投資へ重点配分することで新規事業の確立を加速。これに伴いDOEは中計目標を一時的に下回る水準

(単位：百万円)

■ 配当金額 ■ 自己株式取得 ■ 成長投資

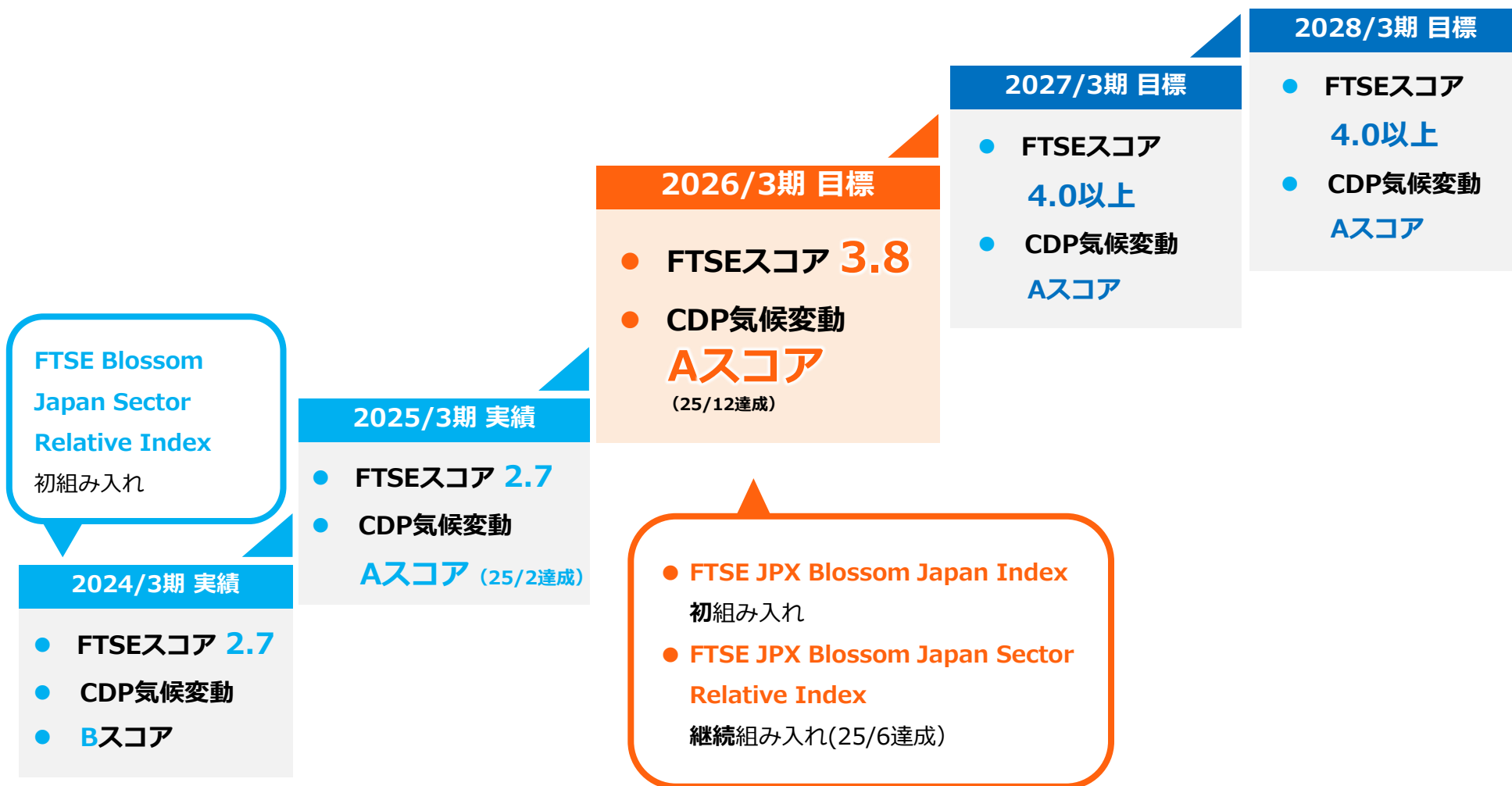


	2025/3期 実績	2026/3期 中計計画値	2026/3期 実績	2027/3期 中計計画値	2027/3期 期初予算
1株当たり 年間配当金	12.0円	—	18.0円	—	20.0円
総還元性向※	52.9%	113.5%	150.1%	119.3%	97.5%
DOE	3.9%	5.0%	5.5%	7.4%	6.1%

※ 総還元性向 = {(配当金総額 + 株主優待 + 自己株式取得) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益} × 100

| 2027年3月期 非財務情報

◆ CDP気候変動部門において、2年連続最高評価「Aリスト企業」認定を獲得



市場環境及び中期経営計画の進捗状況

建機用フィルタ市場を取り巻く外部環境

- 地域ごとに濃淡あるも需要は堅調

- ◆ 北米市場は、データセンタや活発なインフラ投資を背景に需要を堅持
- ◆ 石炭需要は弱含みの傾向も、その他の資源は底堅い需要を維持
- ◆ 2027年3月期は地域ごとに需要の濃淡はあるも、総じて堅調に推移する見通し

2025年3月期

2026年3月期 4Q実績

2027年3月期 見通し

日本

原材料価格は高止まり
レンタル向け減少により前年比減

新車需要の回復により前年比増加

公共投資は安定
資材、労務費高騰影響により
需要は横ばいを想定

北米

主要原材料価格は高止まり、円安継続
住宅着工件数減少により前年比減
アフターマーケットは好調

関税・為替の動向は不透明
AIデータセンタ需要
インフラ投資の活発化により
前年比増加

中東情勢は不透明
AIデータセンタ需要増により
新車、アフターマーケット需要は好調

欧州

主要国の需要減により前年比減少

主要国の需要減により
アフターマーケットは
前年比減少

環境規制に伴う買い替え需要増により
新車需要は回復基調

アジア

インドネシア中心に建機、鉱山機械の
需要回復により前年比増加
アフターマーケットは好調

インドネシアにおける
資源価格の低迷により
アフターマーケットは前年比減少

インドネシアにおける
資源価格は回復傾向
アフターマーケット需要回復の見通し

中国

需要低迷が継続

不動産市況は低迷するも
鉱山機械の新車需要の増加により
前年比増加

不動産市況の低迷は継続
鉱山機械の新車需要は堅調維持

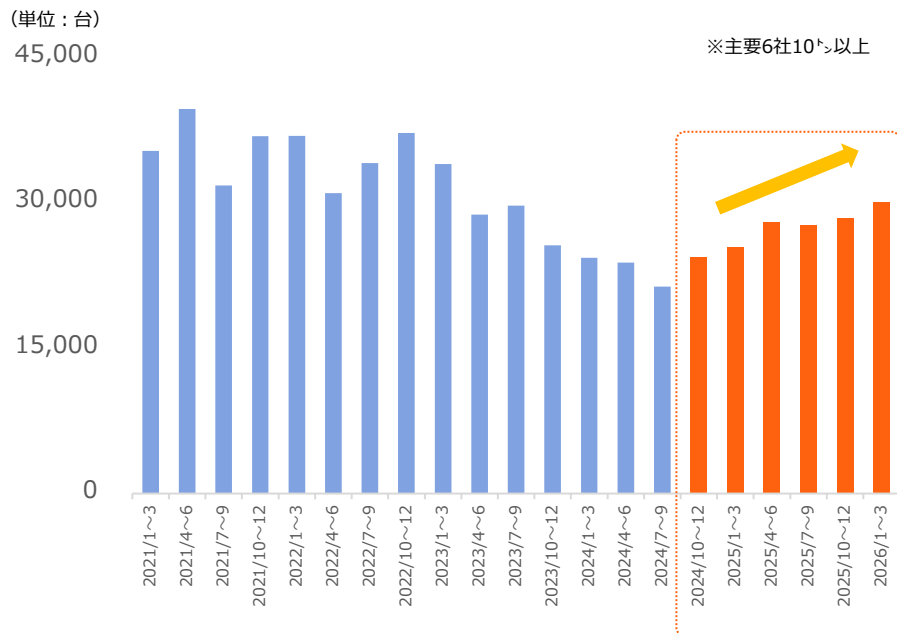
建機用フィルタ市場の需要動向

- 受注は安定推移、需要は堅調を維持

- ◆ 新車生産台数は25年以降、増加傾向が継続中
- ◆ 活況な北米市場を中心にライン品、補給品ともに売上は四半期ベースで順調に成長
- ◆ 2026年3月期第4四半期の受注残高は、過去最高水準を更新

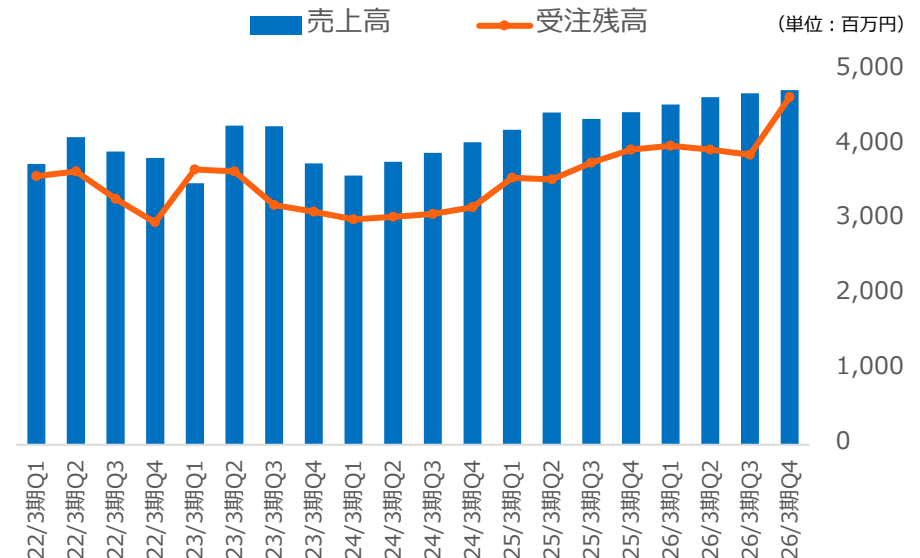
主要建機メーカー合計生産実績 (四半期推移)

新車生産は増産傾向が継続

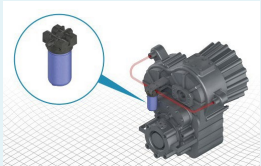
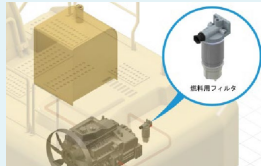
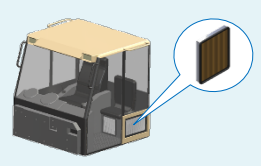
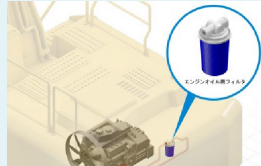
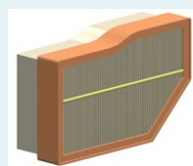


建機用フィルタ売上高と確定受注残高 (四半期推移)

ライン需要が牽引役となって 受注残高は過去最高水準



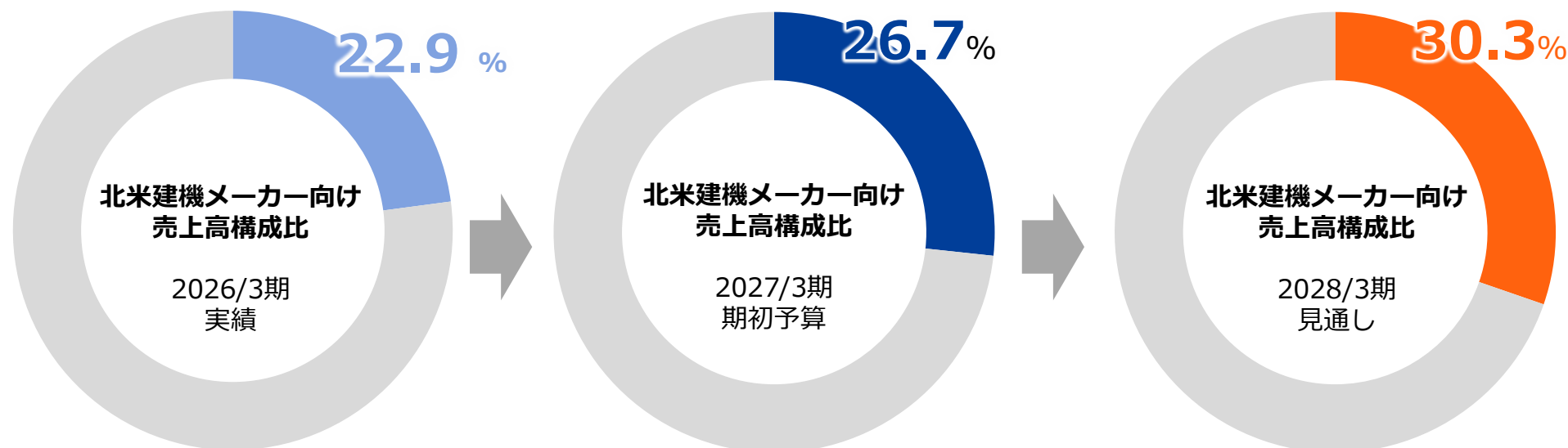
- ◆ 油圧用フィルタなど得意な製品群を中心にモデルチェンジを確実に獲得
- ◆ 新規製品のシェア獲得戦略は計画通りに進捗中

製品 顧客	※油圧用フィルタ	トランスミッション用 フィルタ	燃料用フィルタ	キャビン用 フィルタ	エンジンオイル用 フィルタ	エンジン用 エアフィルタ
						
A社	◎	△ 2026/3 Q3~	◎	◎	△	△
B社	○ 2026/3 Q3~	◎	△	△	△	△
C社	○	△	△	△	△	△
D社	◎ 2026/3 Q4~	-	△	△	△	△
E社	◎	△	△	△	△	△

◎：シェア80.0%以上、○：シェア50.0%以上80%未満、△：シェア50%未満
※油圧用フィルタは、油圧ショベル、ホイールローダー、ブルドーザー、ダンプトラック、モーターグレーダー、クローラークレーン等の機種に搭載
※2024年11月に発表した中期経営計画から、集計対象機種を見直したため、表内のシェア表示が変更になっております。

- ◆ フィルタろ材の競争力に加えて、機械レイアウトにも配慮した製品を提案
- ◆ コストや供給性など、全てのKPIで高いスコアを達成
- ◆ 競合他社からシェア奪還に成功して、中期経営計画目標は順調に進捗

■ 北米建機メーカー ■ その他



実施
施策

多様な顧客接点×技術シーズによる
高付加価値製品の提案

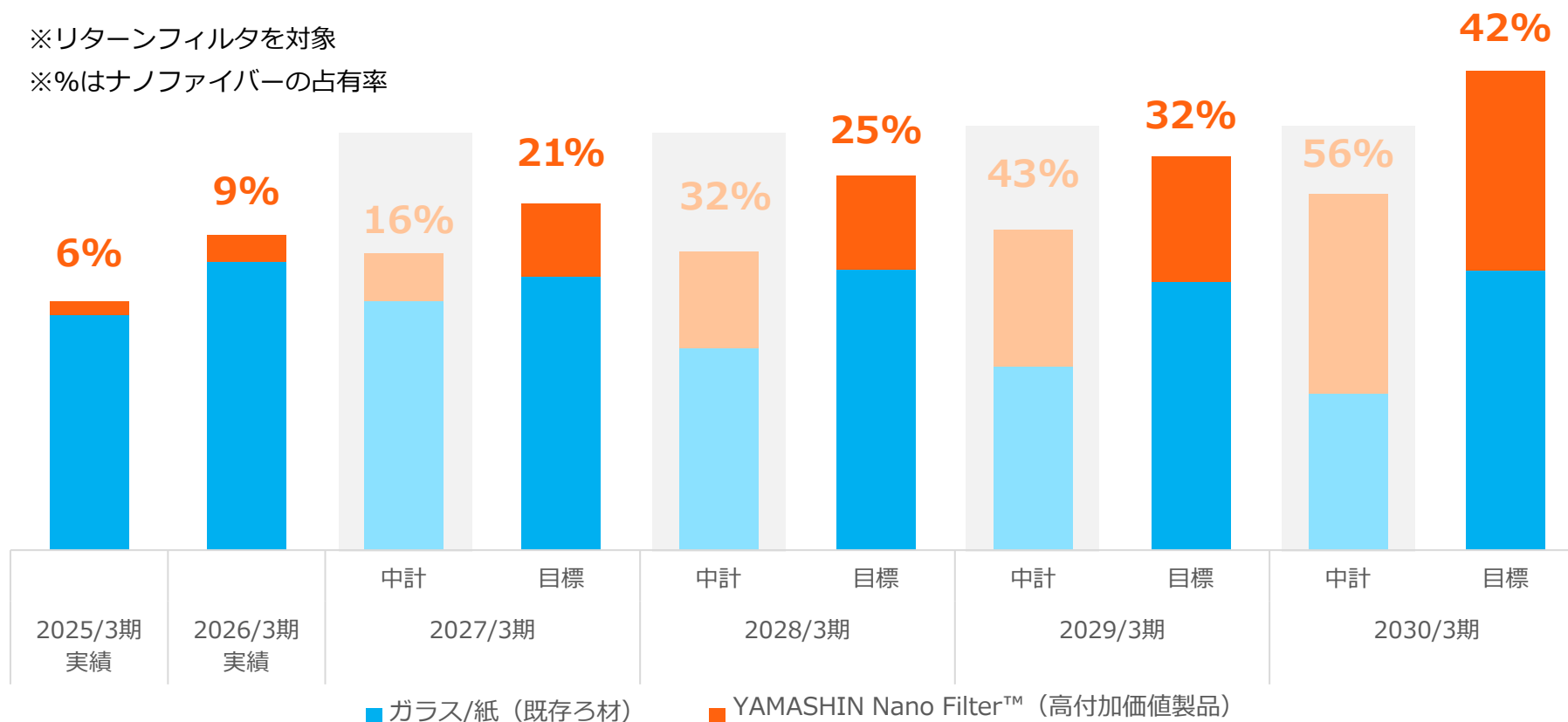
新規製品の採用獲得

- ◆ 当社提案のロングライフ化が大きな潮流になり、ナノ切り替えに追い風
- ◆ アフターマーケット需要の高まりから、既存ろ材も含めて全体的に物量増加
- ◆ 新機種のリリースに影響されるが、中期経営計画の目標値を数量面では上回る見通し

ナノファイバー製品の売上高見通し

※リターンフィルタを対象

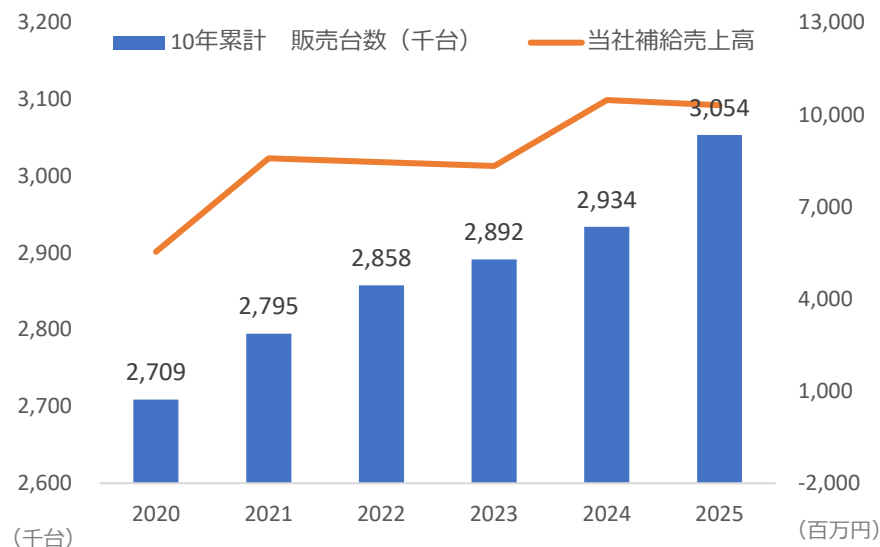
※%はナノファイバーの占有率



- ◆ 建機の市場台数伸長により、当社の補給品市場は順調に拡大する見込み
- ◆ 成長する地域を特定して、市場形成の早期段階から介入する
- ◆ ユーザー及び代理店スタッフに対して保全教育を行うことで、需要を確保する

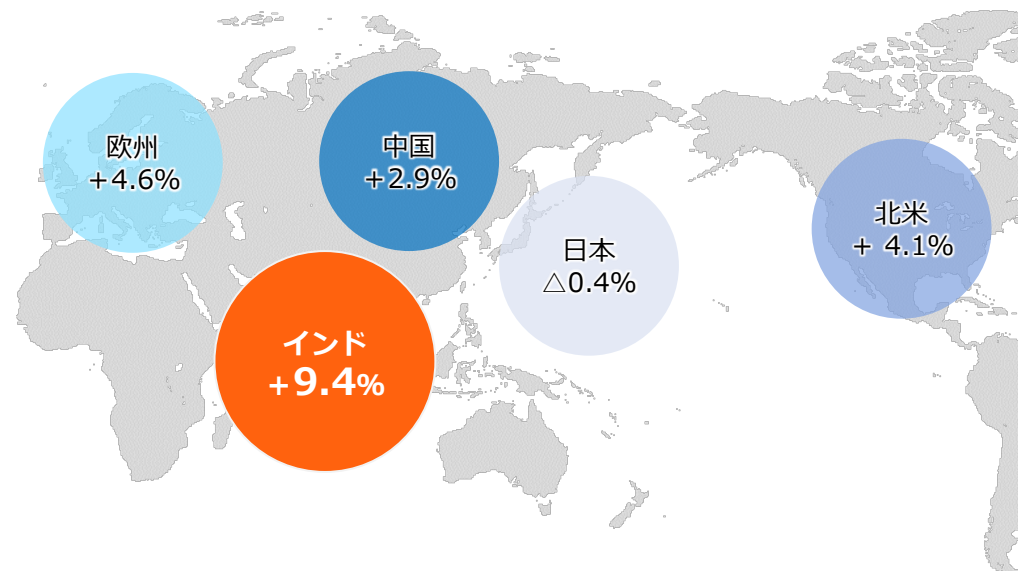
10年累計市場台数の推移と 補給品売上

市場台数は順調に増加
アフターマーケット市場の母数は拡大



地域別市場台数の前年比増減率 (2024年→2025年)

北米及び欧州市場でも市場台数は拡大
特にインドをはじめ、アジア地域は急成長



*出展：オフハイウェイ社データより当社推計

- ◆ 2026年3月期アフターマーケット活動の動員人数は、過去最高の2,000人を突破
- ◆ 動画等のデジタルコンテンツの開発によって、リーチ層の拡大に手ごたえ

ユーザー/スタッフ向け活動実績

ユーザー(セミナー活動)

通期実績：31回 動員人数：2,111名

インド・インドネシア・マレーシア
タイ・フィリピンの5か国

フィルタの専門家が語る純正品の品質やメリットはユーザーの心に刺さり、好評。デジタルコンテンツも「上司に純正品購入の承認が取れやすくなった」など評価。その結果、昨年度比300%の動員数となり、純正率向上へ貢献。

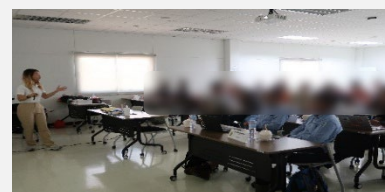
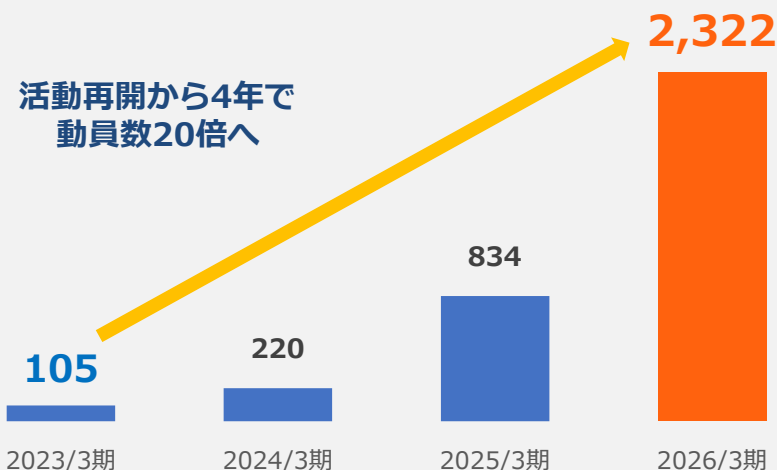
スタッフ(トレーニング講習)

通期実績：13回 動員人数：211名

インドネシア・タイの2か国

座学やデモンストレーションの実践方法提供に加えてデジタルコンテンツでの活動実施することで「理解力の向上を楽しくできた」「営業ツールや社内研修でも使用したい」と好評。その結果、昨年度比145%の動員数となり、代理店の保守契約獲得にも貢献。

活動動員数推移



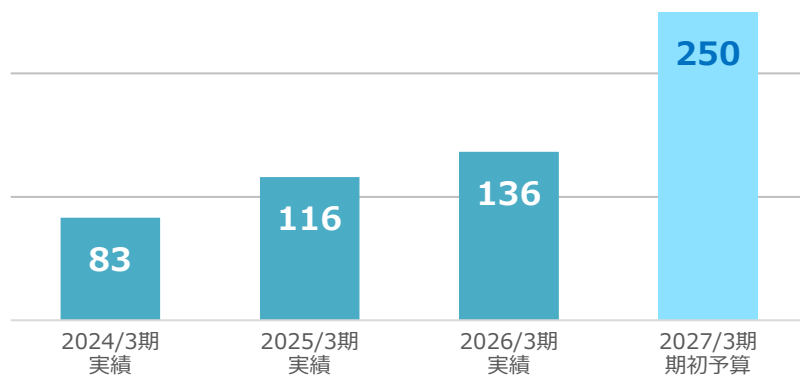
- ◆ ビル建物の獲得競争は変わらず厳しいが、業界のフィルタ需要は堅調を維持
- ◆ 出荷遅延の影響は沈静化するも、売上高の回復には時間を要する見通し

	市場概要	市場環境	
		26/3月期 実績	27/3月期 見通し
ビル・建物	オフィス・商業ビル等に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	→ フィルタ需要は堅調を維持しているが、低価格を求める顧客層が増加。	→ 再開発プロジェクトを背景にフィルタ需要は堅調。コスト意識の高まりから競争は激化。
一般工場	工場に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	→ 米国関税の不透明感から、稼働率低下。保守計画にもマイナス影響。	→ 地政学リスクにより、供給不安定化。保守計画も不透明感あり。
半導体工場	ケミカルフィルタの交換市場	→ 工場は増設傾向にあるため、需要は増加傾向にある。	→ 前年並みの推移見込み。後半から来期にかけ低調に移行。
環境機器	一般家庭で使われる住宅空調・空気清浄機のエアフィルタ	→ 戸建住宅の減少傾向が継続。短期的には材料高騰がマイナス要因。	→ 人口減少につき減少傾向は継続。嗜好性の変化により、住宅メーカー間のシェアが変動。
車両	鉄道等の空調用エアフィルタ 建機の粉塵用エアフィルタ	→ 交換需要は横ばいを維持。リニア部品は、開業が後倒しになった影響で、量産には至らず。	→ 交換需要は堅調を維持。リニア部品は開業し、今後量産見通し。

- ◆ 基幹システム導入に伴う混乱はあったが、注力領域では前年を超える実績
- ◆ 他社では対応不能だったニーズを持つ顧客の探索・商談は、順調に進捗中
- ◆ ティア1メーカーの知見を活かして、製品供給や共同開発がスタート

BtoB直販領域における実績と計画

(単位：百万円)



- 工場で発生する臭気などの問題解決に取り組み、オイルミスト対策に特化した新製品を武器に拡販を進めている。
- 有害ガス除去の実機試験を依頼元と共同で進めながら、データ収集と新製品開発に尽力。2026年中の市場投入を目指し進捗中。

有望分野に対するアプローチ

産業機器分野



空調機器メーカー

空調ユニットに搭載される標準フィルタに採用。工場や倉庫で設置される。

厨房機器メーカー

セントラルキッチンに使用されるような大型排気装置に搭載。

生産工程分野



製薬メーカー

製薬品質に関わる工程で空調コントロールするために採用。

製品メーカー

溶接ヒューム等の工程から排出される成分を除去するために製品を採用。

YAMASHIN FILTER VISION 2030 の進捗

－ 機能素材事業

- ◆ 当社ナノファイバー素材の競争優位性を最大限発揮できる市場領域を精査
- ◆ 機能テキスタイル・ライフサイエンス・産業資材の3つの市場領域を選定

市場規模大

機能テキスタイル



アパレル / 防火服

高成長市場

ライフサイエンス



生体センサー / メディカル

安定市場

産業資材



耐熱・断熱素材 / EMIシールド材

開発テーマ

機動性

保温性

調湿性

快適性

高センサー精度

吸音性

薄さ

- ◆ 実績のあるアパレル市場への製品供給が開始
- ◆ ターゲットポジションをさらに明確化し、販売戦略を積極的に推進
- ◆ 2025年11月に販売したTEXIFIL™（テクシフィル）採用のゴルフベストは完売

ターゲットポジション

素材自由度の高さを活かしたデザイン性と
素材の薄さを活かしたコレクション領域を
ターゲット領域に設定



販売戦略と進捗

快適性を追求した
日本発のアパレルブランド3社に
当社TEXIFIL™が採用決定

テ ク シ フ ィ ル
TEXIFIL



FaW TOKYO（ファッションワールド東京）春 2026

日本発
パリコレブランド
2社採用

日本発
ゴルフブランド
1社採用

ー ライフサイエンス分野、産業資材分野

- ◆ ライフサイエンス、産業資材分野において産学連携、他社とのアライアンスが進展
- ◆ 大学や研究機関等との共同研究により素材開発を深化させ、業務提携により販路の拡大、社会実装を加速



参考資料

–2026年3月期 決算にかかる補足情報

MAVY

企業価値向上に向けた定量目標として財務情報、
非財務情報、株主還元情報を区分しKPIとして設定

財務

非財務

株主還元情報

稼ぐ力

ROIC

資本調達
コスト
WACC

企業価値

MAVY's

投下した資本に対する
収益率

ROICが高いほど
効率的に資本を活用し収益を生み出している

コストを上回る価値
を生み出しているか

+の値であれば、
資本調達コストを上回る価値を生み出している

「仕濾過事」を具現化し、新たなステージへ

建機用フィルタ

- 多様なアプローチによるシェア拡大
- 高付加価値製品の導入
- アフターマーケット活動の進化

エアフィルタ

- 既存商流の強化
- 直販体制の強化
- ろ材の拡販

企業価値を向上させる MAVY's経営の実践

財務情報 KPI (2028/3期)

- MAVY's (独自指標) **2%**以上
- ROIC **10%**以上
- WACC **7.3%**

株主還元 KPI (2028/3期)

- DOE **10%**
- 配当性向 **80%**

非財務情報 KPI (2028/3期)

ESG 投資指数

- FTSEスコア **4.0**以上
- CDP気候変動 スコア **A**取得



サステナブルな社会の実現 を目指したESG経営

2027年3月期見通し（2026/4-2027/3）

セグメント別 KPI進捗（MAVY's、ROIC、ROE、WACC）

- ◆ 2026年3月期は、建機用フィルタ事業において中期経営計画が着実に進展した一方、エアフィルタ事業の低調および新規事業の先行投資負担により、MAVY'sはマイナス
- ◆ 2027年3月期は、建機用フィルタ事業における、更なる成長とエアフィルタ事業の収益性改善を最優先課題とし、MAVY'sプラス転換を図る

		2025/3期 実績	2026/3期 中計	2026/3期 実績	2027/3期 中計	2027/3期 期初予算
MAVY's		0.1%	0.2%	△0.7%	1.3%	0.4%
ROIC		8.2%	8.1%	7.2%	8.9%	8.0%
WACC		8.1%	7.9%	7.9%	7.6%	7.6%
ROE		7.8%	8.6%	7.6%	10.2%	8.8%
建機用 フィルタ	MAVY's	2.0%	1.5%	1.7%	2.6%	2.9%
	ROIC	10.2%	9.4%	9.6%	10.2%	10.4%
	WACC	8.1%	7.9%	7.9%	7.6%	7.6%
エアフィルタ	MAVY's	△8.3%	△5.8%	△13.3%	△5.1%	△7.3%
	ROIC	△0.2%	2.1%	△5.4%	2.5%	0.3%
	WACC	8.1%	7.9%	7.9%	7.6%	7.6%

目指すべき定量目標（建機用フィルタ）

1

3軸によるシェア拡大
（顧客軸・技術軸・地域軸）

2

高付加価値製品

3

アフターマーケット市場の進化

Key Goal Indicator (KGI)

Key Performance Indicator (KPI)

Key Success Factor (KSF)

責任部署

※KPI算定の前提

Prv : 2026/3期 実績

Cur : 2027/3期 期初予算

ROIC
Prv:9.6%
Cur:10.4%

MAVY's
Prv:1.7%
Cur:2.9%

WACC
Prv: 7.9%
Cur: 7.6%

売上高営業利益率
Prv: 14.5%
Cur: 15.8%

売上総利益率
Prv:45.7%
Cur:47.3%

販管費率
Prv:31.1%
Cur:31.5%

運転資本回転率
Prv:3.0
Cur:3.2

投下資本回転
Prv: 0.9
Cur: 0.9

固定資産回転率
Prv:2.1
Cur:2.1

売上高伸長率
Prv:6.7%
Cur:8.3%

売上原価率
Prv:54.3%
Cur:52.7%

減価償却費率
Prv:3.5%
Cur:3.9%

研究開発費率
Prv:2.7%
Cur:3.2%

人件費率
Prv:14.6%
Cur:14.8%

売上債権回転率
Prv:4.5
Cur:4.8

棚卸資産回転率
Prv:5.5
Cur:5.9

仕入債務回転率
Prv:7.8
Cur:8.3

有形固定資産回転
Prv:2.4
Cur:2.6

無形固定資産回転率
Prv:77.5
Cur:39.9

新製品開発
純正率向上

購買力強化
歩留り改善

投資計画

テーマの絞り込み
優先順位

最適な人員構成

債権管理

適正在庫の設定

債務管理

設備計画
（R&D・生産）

投資計画

営業・開発

生産

経営企画
財務・管理

開発

人事・総務

営業
財務・経理

生産
営業

生産

経営企画
総務・生産・開発

経営企画
財務・経理

目指すべき定量目標（エアフィルタ）

1 新商流の開拓（BtoB）

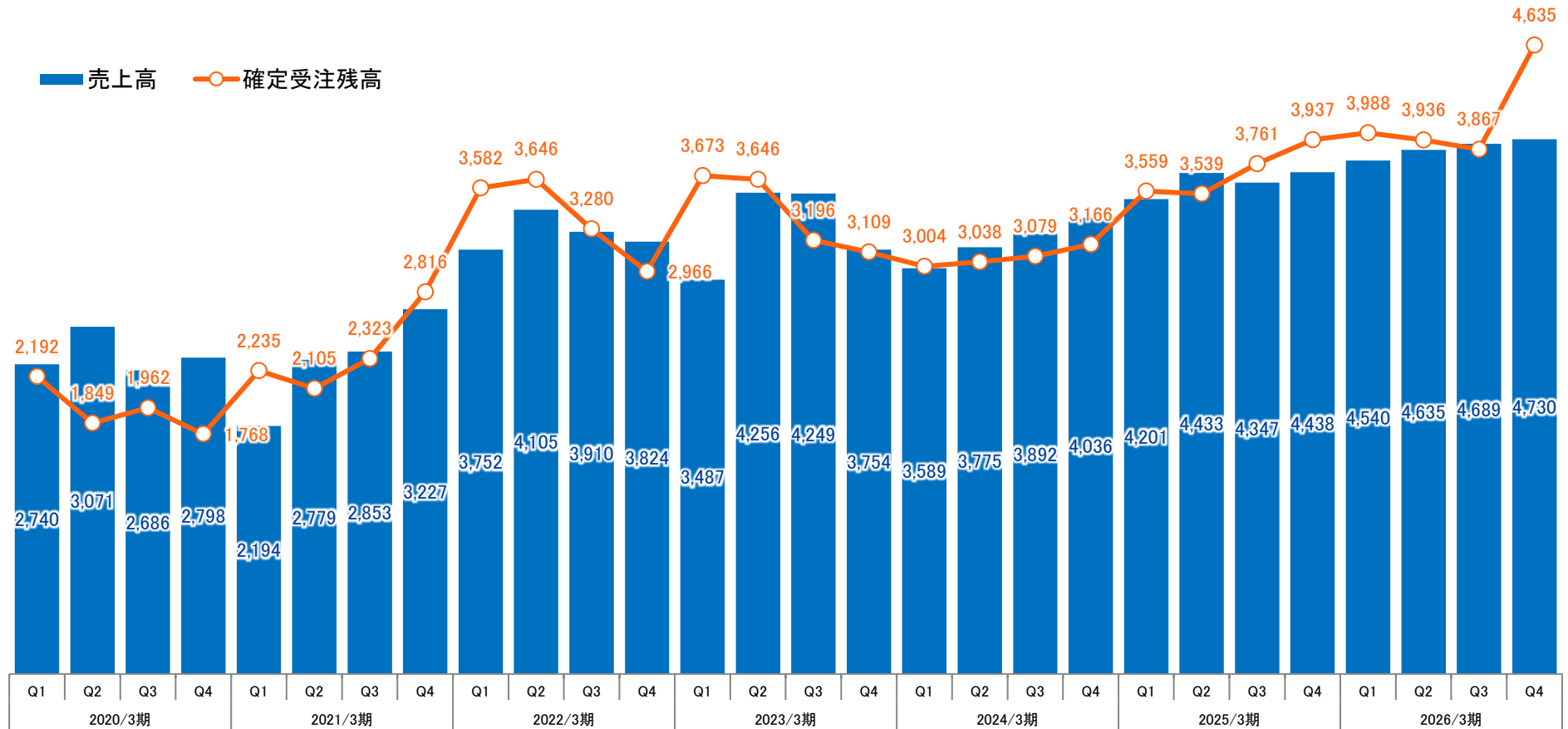
2 高付加価値製品（PFAS・PFOSフリー、CO2、消費電力削減）

Key Goal Indicator (KGI)	Key Performance Indicator (KPI)	Key Success Factor (KSF)	責任部署
※KPI算定の前提 Prv : 2026/3期 実績 Cur : 2027/3期 期初予算 MAVY's Prv:-13.3% Cur:-7.3% ROIC Prv:-5.4% Cur:0.3% WACC Prv:7.9% Cur:7.6%	売上高営業利益率	直販体制の強化	営業
	Prv:-5.3%	購買力強化 歩留り改善	生産
	Cur:0.2%		
	売上総利益率	投資計画	管理
	Prv:29.1%	最適な人員構成	管理
	Cur:32.7%		
	販管費率	債権管理	営業 管理
	Prv:34.4%	適正在庫の設定	生産 営業
	Cur:32.5%	債務管理	生産
	運転資本回転率	設備計画（生産）	生産 管理
Prv:4.8	投資計画	管理	
Cur:6.0			
固定資産回転率			
Prv:0.6			
Cur:0.7			
売上高伸長率			
Prv:-12.5%			
Cur:1.9%			
売上原価率			
Prv:70.9%			
Cur:67.3%			
減価償却費率			
Prv:4.9%			
Cur:4.6%			
人件費率			
Prv:17.9%			
Cur:16.6%			
売上債権回転率			
Prv:3.7			
Cur:4.6			
棚卸資産回転率			
Prv:16.8			
Cur:15.5			
仕入債務回転率			
Prv:6.1			
Cur:5.8			
有形固定資産回転率			
Prv:0.7			
Cur:0.7			
無形固定資産回転率			
Prv:137.5			
Cur:87.1			

確定受注残高と売上高の推移 (建機用フィルタビジネス)

- ◆ 北米市場でのシェア拡大、東南アジア市場における在庫調整の反動増により、2026年3月期第4四半期の確定受注残は過去最高水準を更新

(単位：百万円)



※ 売上高にはヘルスケア売上を含めておりません。

- ◆ 欧州、東南アジア地域での一時的な需要減退がみられるも、新車需要の増加により全地域で増収

■ 地域別売上高

		2025/3期 Q4 実績		2026/3期 Q4 実績		前年同期比	
		金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ※		4,456	86.4%	4,746	88.9%	289	6.5%
	国内	1,683	32.6%	1,720	32.2%	37	2.2%
	北米・南米	1,274	24.7%	1,460	27.4%	186	14.6%
	中国	351	6.8%	387	7.3%	35	10.2%
	アジア	605	11.7%	609	11.4%	4	0.7%
	欧州	541	10.5%	542	10.2%	0	0.1%
	その他（中東他）	—	—	25	0.5%	25	—
エアフィルタ（国内）		702	13.6%	592	11.1%	△109	△15.7%
売上高合計		5,158	100.0%	5,338	100.0%	179	3.5%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

* 上記の地域別の数値は請求書送付先基準で集計しております。

* 従来「その他」に区分されていた南米に「北米」を加え「北米・南米」として集計しております。

- ◆ 北米市場におけるAIデータセンタ需要増、活発なインフラ投資を中心に、各市場における需要は堅調に推移

■ 地域別売上高

		2025/3期 通期 実績		2026/3期 通期 実績		前期比	
		金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ※		17,489	87.0%	18,654	89.1%	1,164	6.7%
	国内	6,900	34.3%	7,027	33.6%	126	1.8%
	北米・南米	4,597	22.9%	5,014	23.9%	416	9.1%
	中国	1,246	6.2%	1,667	8.0%	420	33.7%
	アジア	2,670	13.3%	2,906	13.9%	236	8.8%
	欧州	2,073	10.3%	1,937	9.3%	△136	△6.6%
	その他（中東他）	—	—	100	0.5%	100	—
エアフィルタ（国内）		2,615	13.0%	2,286	10.9%	△328	△12.5%
売上高合計		20,104	100.0%	20,941	100.0%	836	4.2%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

* 上記の地域別の数値は請求書送付先基準で集計しております。

* 従来「その他」に区分されていた南米に「北米」を加え「北米・南米」として集計しております。

- ◆ 北米市場におけるAIデータセンタ需要増、活発なインフラ投資を中心に、各市場における需要は堅調に推移する見通し

■ 地域別売上高

		2025/3期 実績		2026/3期 実績		2027/3期 期初予算		前期比	
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ※		17,489	87.0%	18,654	89.1%	20,200	89.5%	1,545	8.3%
	国内	6,900	34.3%	7,027	33.6%	7,335	32.5%	308	4.4%
	北米・南米	4,597	22.9%	5,014	23.9%	5,652	25.1%	637	12.7%
	中国	1,246	6.2%	1,667	8.0%	2,184	9.7%	516	31.0%
	アジア	2,670	13.3%	2,906	13.9%	2,992	13.3%	85	2.9%
	欧州	2,073	10.3%	1,937	9.3%	1,946	8.6%	8	0.4%
	その他（中東他）	—	—	100	0.5%	89	0.4%	△11	△11.2%
エアフィルタ（国内）		2,615	13.0%	2,286	10.9%	2,330	10.3%	43	1.9%
機能素材（国内）		—	—	—	—	30	0.1%	30	—
売上高合計		20,104	100.0%	20,941	100.0%	22,560	100.0%	1,618	7.7%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含んでおります。

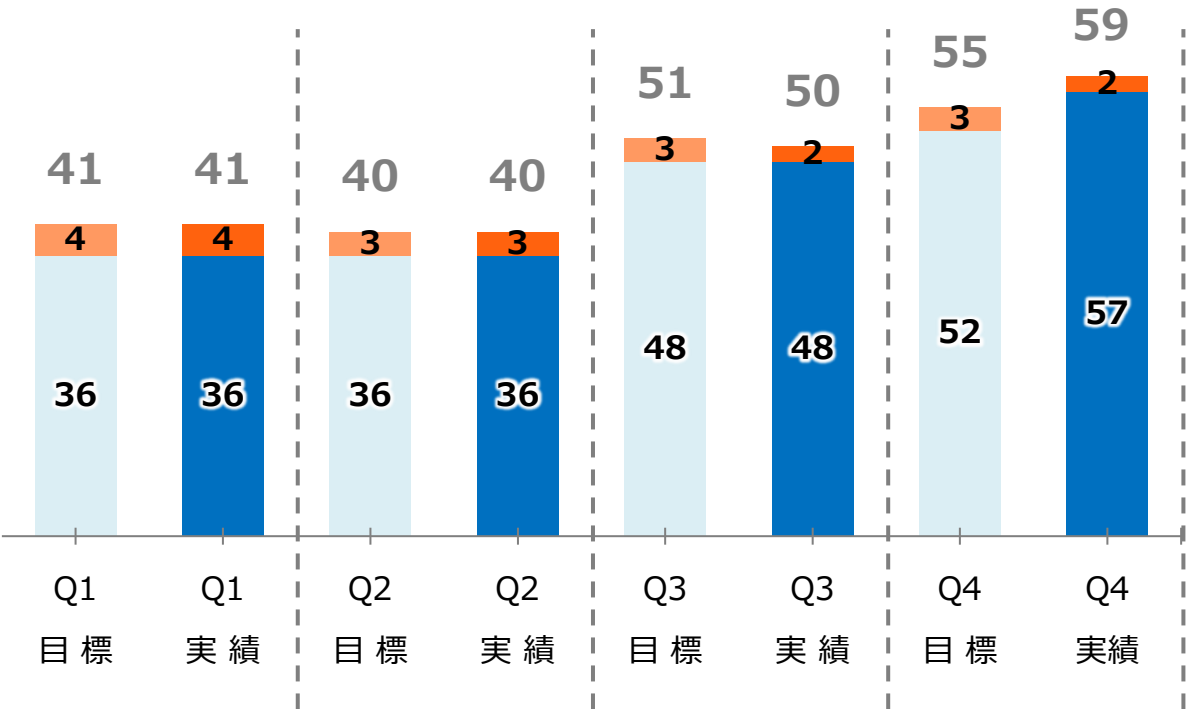
* 上記の地域別の数値は請求書送付先基準で集計しております。

* 従来「その他」に区分されていた南米に「北米」を加え「北米・南米」として集計しております。

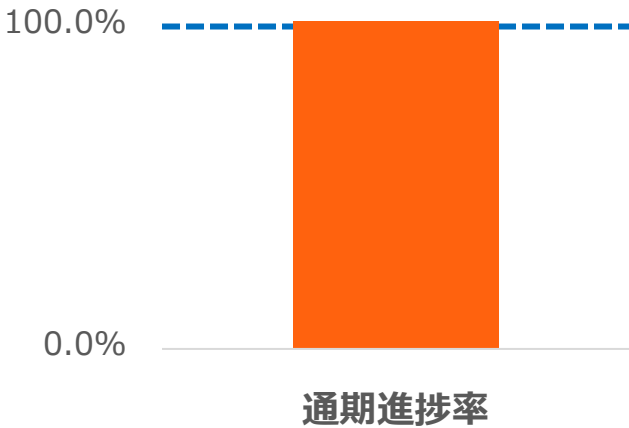
◆ PAC25の取組みは着実に進展

■ 進捗状況（前期比）
（単位：百万円）

製造原価 販管費

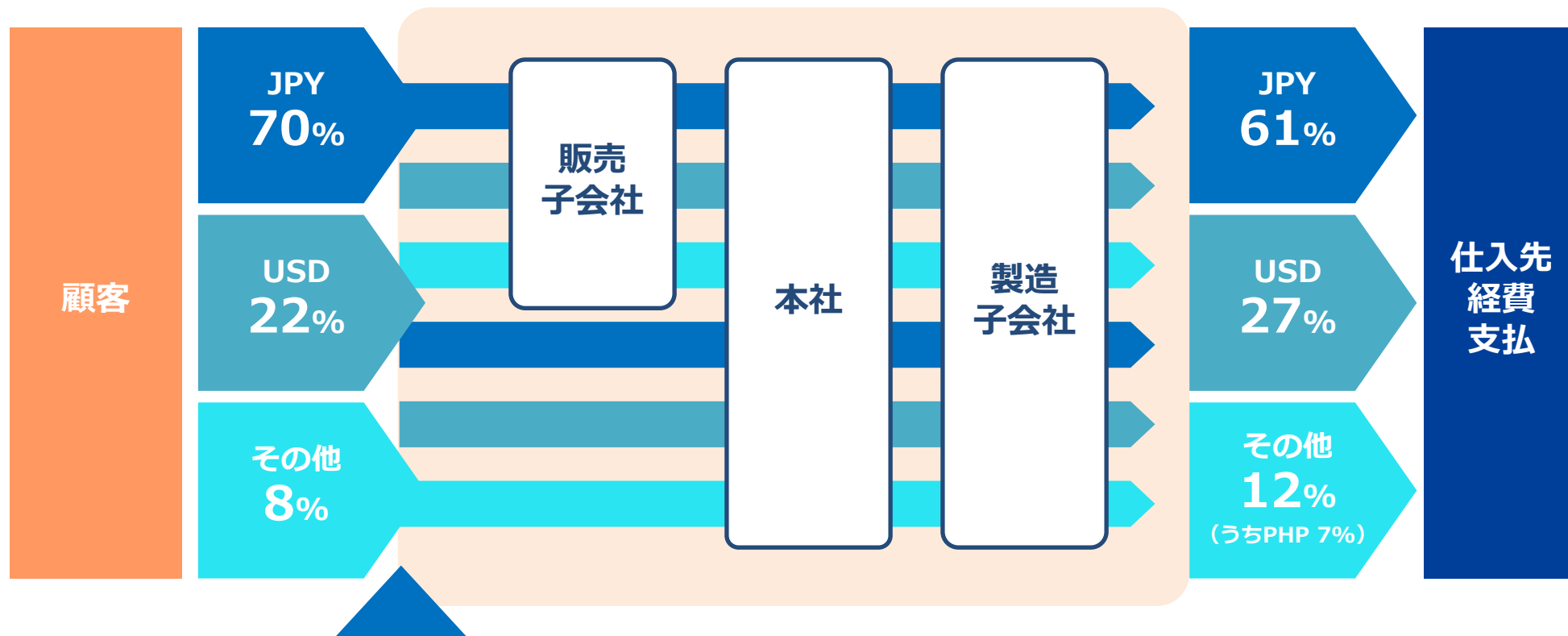


通期進捗率
101.6%
+ 1.6Pt(計画比)



単位 百万円		通 期 標	通 期 績
PAC25	製造原価	174	178
	販管費	14	12
合 計		188	191

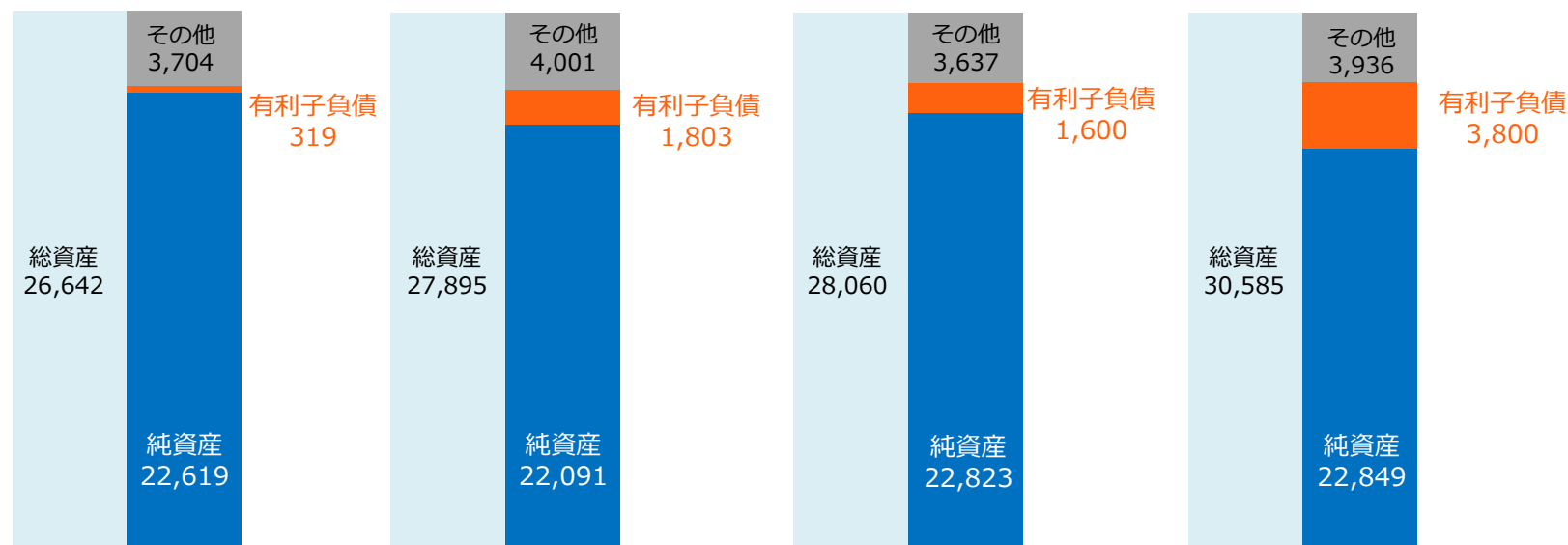
- ◆ 為替感応度は△0.2%、営業利益への影響額は軽微



取引通貨の約7割はJPY

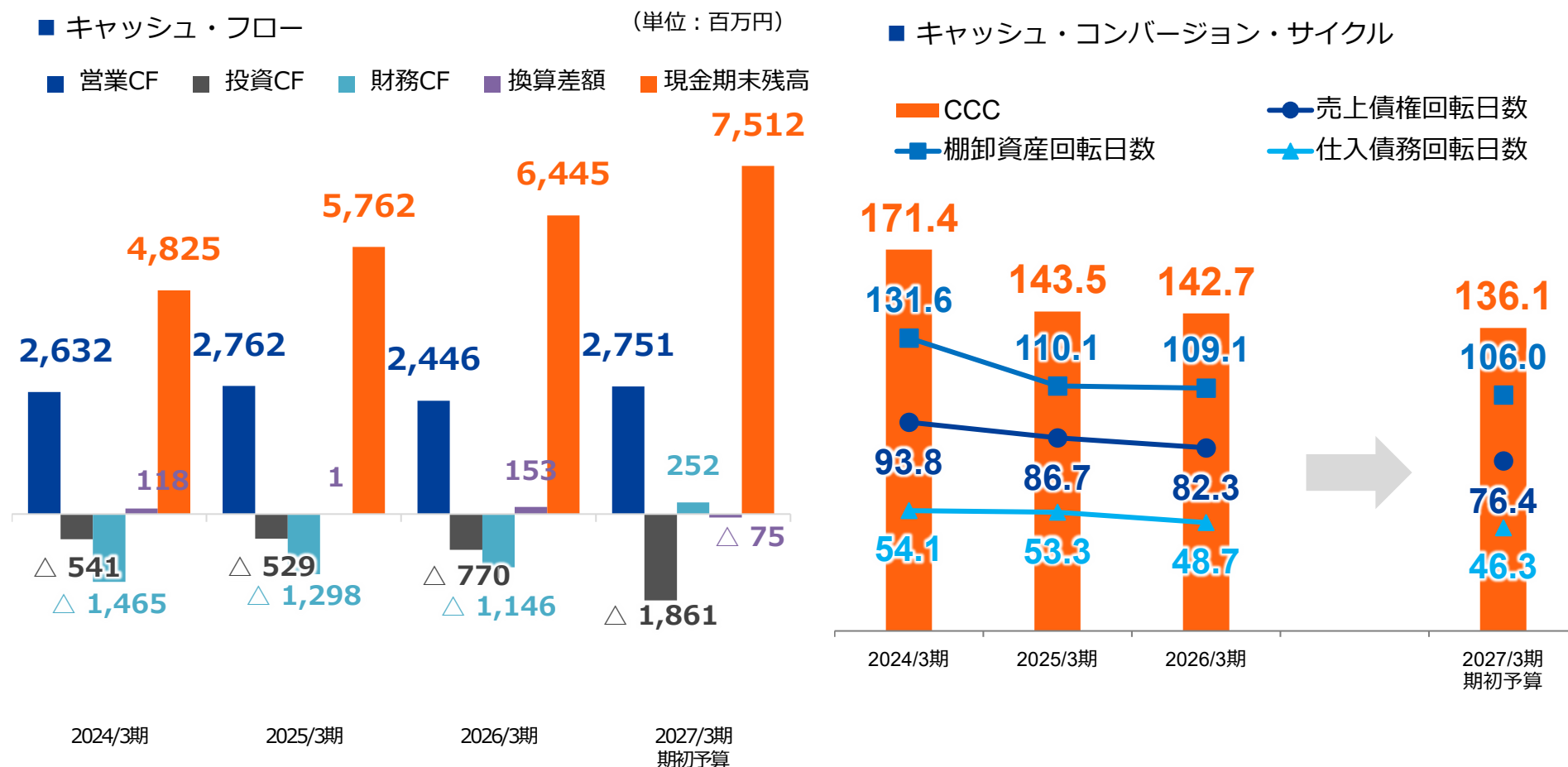
◆ 財務レバレッジ効果によりWACCを改善

(単位：百万円)



	2025/3期 実績	2026/3期 中計	2026/3期 実績	2027/3期 期初予算
自己資本比率	84.9%	79.2%	81.3%	74.7%
財務レバレッジ	1.18	1.26	1.23	1.34
WACC	8.1%	7.9%	7.9%	7.6%

- ◆ 連結業績改善により潤沢なキャッシュフローを維持
- ◆ サプライチェーンの最適化、在庫水準管理の徹底により資金効率は大幅に改善



2027年3月期見通し（2026/4-2027/3）

資本政策進捗（総資産、自己資本比率、財務レバレッジ、WACC）

	2025/3期 実績	2026/3期 中計	2026/3期 実績	2027/3期 中計	2027/3期 期初予算
総資産 (百万円)	26,642	27,895	28,060	29,931	30,585
自己資本比率	84.9%	79.2%	81.3%	73.2%	74.7%
財務レバレッジ	1.18	1.26	1.23	1.37	1.34
WACC	8.1%	7.9%	7.9%	7.6%	7.6%

2027年3月期見通し（2026/4-2027/3）

株主還元（配当金、DOE、配当性向、総還元性向）

	2025/3期 実績	2026/3期 中計	2026/3期 実績	2027/3期 中計	2027/3期 期初予算
1株当り 年間配当金	12.0円	16.0円	18.0円	24.0円	20.0円
連結配当性向 ^{※1}	49.3%	58.1%	73.1%	72.2%	69.7%
配当利回り ^{※2}	2.1%	1.5%	3.8%	1.6%	2.3%
DOE ^{※3}	3.9%	5.2%	5.5%	7.4%	6.1%
総還元性向 ^{※4}	52.9%	113.5%	150.1%	119.3%	97.5%

※1 連結配当性向 = (配当金総額 ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益) × 100

※2 配当利回り = (1株あたり配当金 ÷ 期末日現在の株価) × 100

※3 DOE（株主資本配当率） = (年間配当総額 ÷ 株主資本) × 100

※4 総還元性向 = {(配当金総額 + 株主優待 + 自己株式取得) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益} × 100



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 コーポレートコミュニケーション部IR課 まで

TEL

045-680-1680

E-mail

ir@yamashin-filter.co.jp